

1. 今後の進め方

(1) 渋滞対策

■主要渋滞箇所における課題の把握

○渋滞対策協議会においてETC2.0や民間プローブデータ等を用いて継続的に交通状況を把握するとともにカルテを作成し、課題状況の把握及び情報を共有する。

■合同現地地点検による課題の共有

○渋滞対策協議会構成員の担当者レベルでの合同現地地点検を実施し、交通課題を共有する。

■対策の検討

○道路整備による抜本的な長期対策、一定の効果が期待される短期的なピンポイント対策を検討する。

(2) 主要渋滞箇所の特定解除

○バイパス整備箇所等を重点的に継続的なモニタリングを実施し、必要に応じて主要渋滞箇所の特定解除を実施する。

(3) P&Rを中心とした既存のソフト施策について

○看板設置の増強や継続的な広報により、一定の効果は確認できるため、引き続き、ETC2.0や民間プローブデータ等を用いて継続的に効果検証を実施し、対策内容の改善に努める。

○また、依然として、渋滞は残存するとともに、京都市では、近年観光客が過去最高を記録しており、今後も継続して自動車による観光交通が増加する可能性があることから、外国人観光客への対応も含め戦略的に対策を検討する。

○その際、今後の道路整備や道路を賢く使う取り組み(例:スマートIC、交通結節点の充実)等と連携した対応としていく。